



a 校訓	自主・友愛・創造	a 学校教育目標 たくましく しなやかに	(育成を目指す資質・能力) 「主体性」「協働性」「創造性」
------	----------	-------------------------	----------------------------------

評価計画				自己評価					学校関係者評価			改善計画		
b 中期経営目標	c 短期経営目標	d 達成のための方策	e 評価指標	f 目標値	7月	1月	h 達成度	I 評価	J 結果と課題の説明 ○:成果 ▲:課題	k 二次評価			l コメント	m 改善案
					g 達成値	g 達成値				イ	ロ	ハ		
主体的・対話的で深い学び カリキュラム・マネジメント	学習の個性化と協働的な学びの充実	総合的な学習の時間の充実 【教育研究部】	・様々な体験から得た生徒の興味・関心・キャリア形成の方向性等に応じ、生徒一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供する。 (生徒質問紙) 「総合的な学習の時間では、友だちと話し合うなどして、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。」肯定的回答の割合	90%以上	86.5%	86.1%	95.6%	B	○探究課題の解決に向けて、友だちと話し合い、自分の考えを深めたり広げたりすることができている。 ▲自分の考えをはっきり伝え、理由を示すことがさらに必要である。	○			・話し合い活動など自らの考えを深め、共に学び合い成長する取組を推進している。	・話し合いの前に自分の意見や理由を整理し、発表のイメージをしてから発言する。
		特設授業「まなびスペシャル」の充実 【教育研究部】	・本物（専門家）との出会いで社会を意識し、自らの生き方を見つめる学びを推進する。(3回/年間) (生徒質問紙) 「『まなびスペシャル』は、自らの生き方や、自分自身を見つめる機会となりましたか。」肯定的回答の割合	90%以上	73%	73%	81.1%	B	○自分の考えや気持ちを振り返り、自分らしい生き方について考えることができています。 ▲自分の価値観や目標をより具体的に整理し、行動につなげる力を高める必要がある。	○			・なかなかできない機会を積極的に開き、生かしてもらいたい。	・自分の考えや目標を書き出して整理し、日々の行動に反映させる。
		異文化間交流活動の充実 【教務部】	・アートマイル活動等の多様な国の人々との交流を通じ、国を超えて理解し合い、協力し、世界平和を実現する教育を推進する。 (生徒質問紙) 「外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知りたいと思ったりしますか。」肯定的回答の割合	80%以上	73.7%	70.4%	88.0%	B	○1年生はアートマイル活動により関心が高い生徒が多かった。 ▲2・3年生は何らかの活動を仕組んで関心を高めさせる必要がある。	○			・世羅高のニューヨークとの交流を活用して、視野を広げて欲しい。	・世羅高と合同で台湾の学校と交流するなど取組が必要である。
		生徒の自治的な活動の充実 【生徒指導部】	・生徒会行事や体育大会、まなびの発表会は、生徒が主体となって成功を目指し、多くの生徒と共に感動を味わいながら企画・運営を実践的に学ぶ教育を推進する。 (生徒質問紙) 「学校がより良い学校になるために活動したいと思いませんか。」肯定的回答の割合	80%以上	75.2%	67.5%	84.3%	B	○学校行事等、積極的な役員候補がある。 ▲主体的に取り組めない生徒への指導支援の充実により、すべての子供たちの可能性を引き出す必要がある。	○			・質問紙の「よりよい学校」について、生徒と意見交換を行い、それに向けて動いていくこともいいと思った。	・主体的に取り組めない生徒への指導の個別化を図る。
社会に開かれた教育課程 生きる力の育成	指導の個別化と協働的な学びの充実	学びの選択肢のある授業の充実 【教育研究部】	・生徒一人一人の特性や学習進度、学習到達度等に応じ、指導方法・教材等の柔軟な提供・設定を行う。 (学力調査) 通過率が全国平均以上の生徒の割合	55%以上	38.3%		69.6%	C	▲思考、判断、表現の問題については、無回答率が高く、問題の意図を理解できていない。	○			・無回答を減らすべく勉強にチャレンジするような授業にしてほしい。	・結果を踏まえて丁寧に分析し、職員間で共有する。
		単元内自由進度学習に係る研究推進と実施 【教育研究部】	・単元開始時に自らの全体の学習計画を立て、プリントやICT等により自立的な個別学習を行うことを通して、自らの学びをモニターしながら、メタ認知や学習を調整する力を育成する。 (生徒質問紙) 「授業では、自分に合った学習活動や学習課題を選ぶことができますか。」肯定的回答の割合	80%以上	77.4%	78.4%	98%	A	○自分のペースで学習を進め、計画的に課題に取り組むことができています。 ▲進度や内容の調整を自分で管理し、最後まで計画的にやり抜く力をさらに伸ばす必要がある。	○			・肯定的回答が自信へとつながり、継続されていればよいと思う。	個別カルテを作成し、進捗状況を確認しながら、自分で調整して最後までやり抜く習慣をつける。
		「まなび Challenge」の充実 【教務部】	・週に4回程度、漢字を学習する時間を10分間設定し、11月の日本漢字能力検定において自らが希望する級への合格を目指す。 (日本漢字能力検定) 自らが希望した級への合格者の割合	75%以上		35.3%	47.1%	D	▲初めての取組であったが、学習に向かう姿勢の差が大きかった。学期途中に確認テストを行う等、希望する級に向けての手立ても必要であった。	○			・取組は続けていく方がよいと思う。	・来年度は受検は希望制とするが、今回の経験を学習への取り組み方の参考とさせたい。
		深い生徒理解と良質な集団づくりを通じた安心・安全な風土の醸成 【生徒指導部】	・毎週水曜日に算数を復習する時間を設定し、分数・小数・割合の計算問題に取り組むことで、基礎的な学力を向上させる。 (評価問題) 各学期に実施する評価問題の全体通過率	75%以上	84.7%	87.4%	116.5%	A	○割合の計算は、特に2年生・3年生で正解率が上昇した。 ▲小数や分数の計算は、全体的に正解率が上昇傾向にあるが、80%程度に留まっている問題もある。	○			・問題の正解が喜びとなり、その段階がさらに高まるよう、期待する。	・今後も活動を継続し、基礎的な学力の向上に努める。
確保 子供と時間の向き	業務改善・働き方改革の推進	勤務時間外在校時間の縮減 【総務部】	・自らの全体の業務内容を把握し、優先順位を決めて取り組むことで、勤務時間外在校時間を縮減する。 ・生み出された時間で生徒と向き合う時間につなげる。 (入校退校時刻記録) 一か月の勤務時間外在校時間 45時以下の職員の割合	60%以上	69.2%	77.6%	129%	A	○一か月の勤務時間外在校時間 45時間以下の職員の割合が、毎月7割を超える状況であった。 ○職員同士で声を掛け合いながら、計画的に業務に取り組むことができていた。	○			・目標値を大きく上回る達成度となり、優先順位や声掛けが機能していると思われる。	・業務の優先順位を整理し、効率的な分担や計画的な時間管理するよう声掛けをする。
		最上位目標・指標	全方策による	生徒質問紙「学校へ行くのは楽しいです。」	100%	85.7%	77.6%	77.6%	C		○			

【自己評価】

A:100%(目標達成) B:80≤(ほぼ達成)<100
C:60≤(もう少し)<80 D:(できていない)<60

【外部評価】

イ:自己評価は適正である。 ロ:自己評価は適正でない。
ハ:わからない